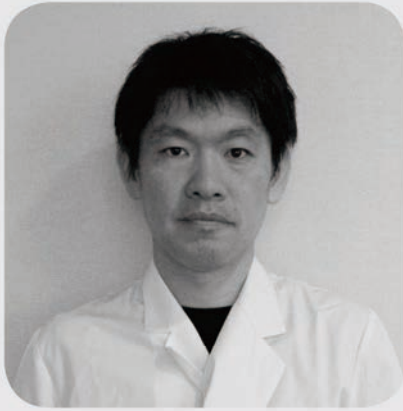


MANGA



消化器科

はら ゆういち
原 裕一先生

日本人ぐらいマンガの文法を自然に身に着けている国民はいないと思います。このコマは、どうしてこの大きさなのか。なぜここは、背景が真っ黒でないといけなのか。その理論が知らないうちに身についています。なぜ身についたか。そこには偉大な先人の独創がありました。紙芝居という、日本の発明があり、延々とさかのぼると、かの「鳥獣戯画」までいきます。その伝統の最先端にマンガがあると思います。マンガは人生をたった1コマに詰め込み、人の世の、喜び苦しみを描く。CGには絶対作れない夢の世界を、二次元世界に定着できる。この事

に、世界はやっと気がつきました。世界中でいま、猛烈な学習を始めています。マンガ、漫画…色々言い方はありますが、皆さんマンガは日本語とっておられることでしょうか。しかしマンガはMANGAとなり、世界で共通する世界語の1つになりつつあります。SUSHI (寿司)、TSUNAMI (津波) と同様に、原語は日本語ですが広く使われる単語として、KARAOKE (カラオケ) などと同様にどこでも通じる単語になりつつあります。フランスではマンガの売上げが出版市場で無視できない規模になり、ついに2004年に、フランス国立出版社協会の統計にMANGAというカテゴリーが初めて設けられるまでになっています。

昨年、ドイツで学会があった時も本屋にドイツ語版の「犬夜叉」が並んでいました。ドイツにおいても、日本の漫画が売られているという事実は、なにか心に響くものがありました。日本から発信している文化というのは、何も和食、歌舞伎、柔道ばかりではないのだなあと感じました。今やマンガ、ポップ、ファッションはいずれもジャパニメーション、J・POP、J・ファッションの3J (スリージェイ) と

して広くアジアに浸透しています。アメリカの月刊誌TIMEでも「日本のソフトが席卷しつつあるのが、昨今アジアの文化情勢だ。日本はハードの国だけではなく3Jによって、ソフトの面でも大きな存在に成りつつある」と数年前にかかれていました。考えてみれば「浮世絵」も、もとは浮世を描いた絵、風俗画であったものが海外で評価されて、日本での値打ちが上がりました。我々は海外で評価されたと思って、マンガやカラオケ、回転寿司を開発したのではありません。単に好きだから、一生懸命作成に没頭していたら、世界中に売れて評価されたのだと思います。マンガなんて…と思う方もいらっしゃるかもしれませんがこれから自信と誇りを持って読み続けていきたいと思えます。

最後にお知らせです。10月24日(土)13時～、川崎医科大学附属病院にて『肝がん撲滅運動』と題した市民公開講座を開催予定です。ご興味のある方は是非お越し下さい。

原先生は毎週火曜日午前の消化器科外来を担当されています。

Doctor's Eyes